



大基委大評第 149 号
平成 26 年 3 月 17 日

山梨英和大学
学長 風間 重雄 殿

公益財団法人 大学基準協会
会長 納 谷 廣 美



貴大学の「改善報告書」の検討結果について（通知）

標記に関し、本年度、貴大学よりご提出頂きました「改善報告書」につきましては、大学評価委員会において慎重な審議を行い、別紙の通り検討結果をとりまとめましたので、ここにご通知申し上げます。

添付資料 「改善報告書検討結果（山梨英和大学）」

以上

〈 改善報告書検討結果（山梨英和大学） 〉

[1] 概評

2009（平成 21）年度の本協会による大学評価に際し、問題点の指摘に関する助言として 11 点の改善報告を求めた。今回提出された改善報告書からは、これらの助言を真摯に受け止め、意欲的に改善に取り組んでいることが確認できる。

ただし、次に述べる取り組みの成果が十分に表れていない事項については、引き続き一層の努力が望まれる。

教育内容・方法については、カリキュラム改革の初年度に編入する場合、編入学生の入学年度は旧カリキュラムの年度になる。カリキュラム改革の初年度は、新カリキュラムの 1 年次生対象科目のみが開講され、その翌年以後に 2 年次生以降対象の科目が学年進行で順次開講するため、3 年次編入学生は初年度には 2 年次生以降対象の科目を履修できないことが原則である。しかし、人間文化学部の編入学生に対して新入生対応の新カリキュラムを受講させていた点については、すでに当該学生に対して履修を認めた後に指摘を受けたので、学生の利益の点から現状を変更する必要はないが、今後同様の事態が起こらないよう留意することが望まれる。

研究環境については、研究活動が低調な教員が散見され、在外・内地研究員制度が活用されていない点に関し、各種委員会等の整理・統合、見直しなどにより、教員の大学運営にかかわる負担を軽減した点では一定の改善がみられる。しかし、組織的に研究活動を活性化するために、さらなる改善が望まれる。

また、財務では、学生確保や経費削減方策を行っているが、翌年度繰越消費支出超過額は 2008（平成 20）年度に比べて 2012 年（平成 24）度には増加しており、単年度における安定した財政基盤の強化には至っていない。収入増加と支出削減などの収支改善方策に基づいた数値目標を伴った財政計画を策定して、着実な財政基盤強化を図ることを期待したい。

[2] 今後の改善経過について再度報告を求める事項

なし

以 上